



演奏診断レポート

生徒名
サンプル花子

診断日
2026-08-11

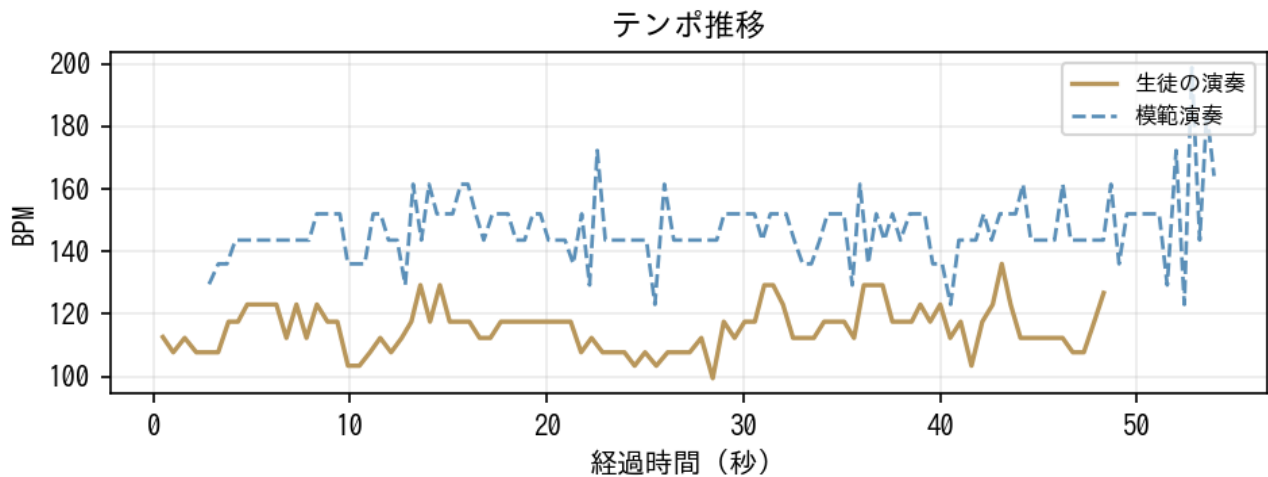
担当講師
サンプル音楽教室

課題曲
ブルグミュラー 25の練習曲 より アラベスク

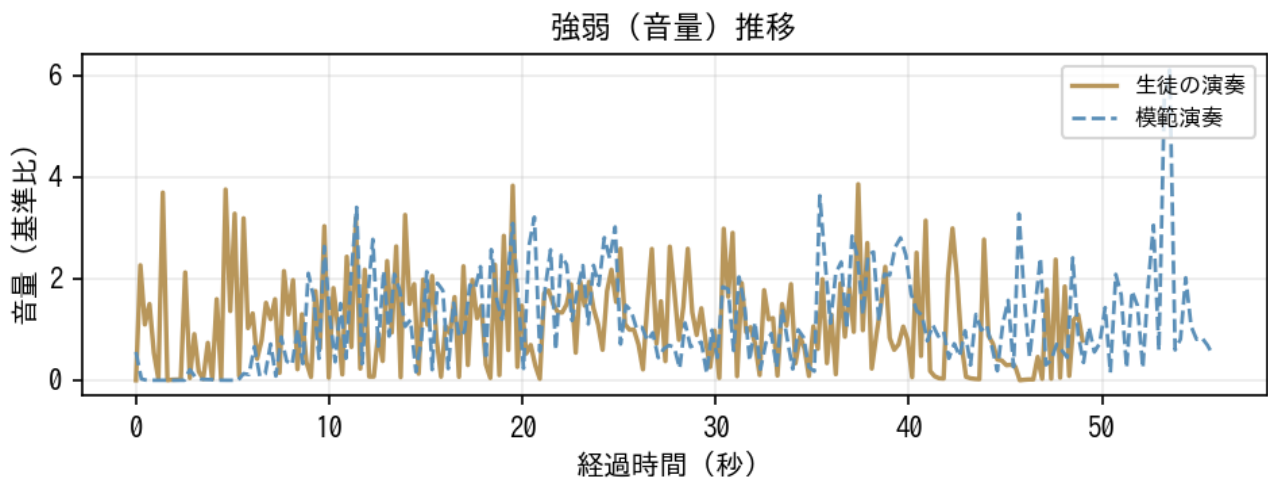
■ 演奏サマリー

平均テンポ: 115.5 bpm テンポ幅: 99.4~136.0 bpm 最大音量
(基準比): 4.07倍

■ テンポ推移 (生徒 / 模範演奏)



■ 強弱 (音量) 推移 (生徒 / 模範演奏)



■ AI診断コメント

このアラベスクの演奏は、全体的に模範演奏よりも約32 bpm遅いテンポで進んでおり、とくに序盤（0～2秒）と中盤以降（9～16秒）のピアノ（p）の指示に対して、音量がやや強めに出てしまっているようです。また8～9秒付近の段階的な強さの変化（cresc.）や22～23秒付近の弱まり（decresc.）の場面では、テンポの動きが模範演奏と逆方向になっていることが確認されました。冒頭の16分音符は丁寧に進められているという良さがありますが、この曲の「左手の ATTACK が右手より目立たないこと」と「テンポを走らせないこと」という審査ポイントに照らすと、強弱とテンポの動きをもっと意識的にコントロールする工夫が必要に見えます。

■ 演奏のポイント（模範演奏より）

打鍵：冒頭の16分音符は指先を立て、手首の高さを一定に保ち滑らかに滑らせる。

ペダル：原則ノーペダル。響きを濁らせず、指先のアーティキュレーションを優先。

審査ポイント：テンポが走らず、左手の和音の ATTACK が右手より大きくならないこと。

■ 練習アドバイス

強弱記号に対応した音量コントロール

ピアノ（p）の区間では、冒頭と9秒以降とくに意識的に音量を落としてみてください。メトロノーム♩=100程度で、はじめはゆっくり片手ずつ、右手の16分音符の繊細な音量をしっかりと小さくするイメージで練習しましょう。

Cresc.（強くなる）とDecresc.（弱くなる）のテンポ管理

8～9秒付近で音が強くなるときは、テンポが少し進む傾向が見えています。逆に22～23秒付近で弱くなるときは、テンポが遅れぎみです。強弱が変わっても、テンポは一定に保つ意識を持ち、メトロノームを鳴らしながら練習してください。

次回までの目標

1. ピアノ（p）と強弱記号の指示に従い、その区間ごとに正確に音量を調整する練習。
2. メトロノーム使用時に、強弱が変わってもテンポが揺れないよう安定させること。